

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270105077		
法人名	医療法人秀和会 釣船医院		
事業所名	グループホーム『おお空』 1階 青天		
所在地	長崎市かき道1丁目29番8号		
自己評価作成日	令和6年10月	評価結果市町村受理日	令和7年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和6年11月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「いっしょに いつも いつまでも」を理念に掲げ常に寄り添い笑顔と会話が溢れ活気ある居住空間を提供することを、心掛けています。介護・看護・主治医・ご家族との連携体制が整っており、ちょっとした体調変化から看取りまで、手厚いケアと支援ができる。ケアプランを職員が周知し支援につなげている。レクリエーションや行事などは全員参加できるように個別の対応も考えている。現在月2回の音楽療法には(体調不良の方以外)全員参加されています。子育て中の職員も多く、希望する時間帯で勤務出来る様にベテランスタッフたちがお応援、サポートしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人が医療機関であるため体調管理から終末期まで、医師、看護師、介護職員が連携を図っており、入居者と家族の安心へ繋がっている。家族や職員に近隣在住者が多く、評判を聞いて入居に至った事例も少なくない。職員の年齢構成も幅広く、シフトを細かく組み、子育て世代が働きやすい職場環境となっている。全職員が委員会活動に所属し、運営に携わることは大変であるがやりがいを感じている。災害対策では、近年多発の災害に備え、職員数が限られた時間帯を想定して繰返し訓練を実施している。お茶会や夏祭りに入居者や職員も着物や浴衣を着て楽しみ、手芸や書道等の趣味の継続、音楽療法等、入居者と職員が共に喜びを分かち合っている。その暮らしぶりは、Instagramで家族に発信し、遠方の家族も共有することができている。開設時の理念「いっしょに いつも いつまでも」は、職員間で引き継ぎ具現化している。新型コロナウイルス禍を乗り越え、入居者と家族に笑顔と安心を届けているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつも一緒にいつまでも、寄り添い日々支援や健康管理を行い介護・看護・主治医等連携し安心して過ごしていただけるよう常に話し合い意見交換している。	代表は、職員採用時に、開設当初からの思いである理念を伝え、職員は日々の業務の中で新人職員を見守り育てている。職員は夏祭りに入居者と浴衣を着て、一緒に楽しんでいる。また、終末期の看取り支援を複数行っている。毎日を楽しむことも病める時も最期までチームで支え、理念「いっしょにいつもいつまでも」を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り、地域の行事への参加や当事業所のイベント事への参加もお願いしているがコロナ過によりあまり実現できていない	家族や職員に近隣在住者が多く、顔見知りの地域住民が施設見学に訪れている。新型コロナ禍で、ボランティアや職場体験等は自粛しており、町内餅つき大会の餅が届いたり、職員が公園の清掃活動に参加している。公民館での防災の講話に参加し、出初式にお神酒を寄贈する等、地域との繋がりが途絶えないよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染状況により地域活動にはあまり取り組めなかった。ご家族に向けてはおお空便りの発行Instagram活用しホーム内での日々の様子や職員との関わり方等伝えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見や情報など定例会にて職員に報告し共有に努めている。会議内容は文書で家族にも報告している	コロナの感染状況に合わせ2ヶ月毎に、対面や書面会議を開催しており、今年度は4月と10月は多くの家族に参加を呼び掛け対面で開催し、行事や各委員会活動の報告を行っている。同業他施設ホーム長から、労働力不足や業務の機械化に関し情報を得て、意見を職員間で検討し、サービス向上に繋がるよう検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市に提出する不明な点を問い合わせ、運営に対する助言を聞いたり、アンケートに答えたりと、連絡を取り合っている	介護保険の更新や事故報告等、行政への書類上の手続きは、ホーム長が行っており、ホームの近況を伝え理解を得ている。職員は行政から案内があるオンライン研修を受講し、勉強会で報告している。今年度は6年振りに、実地指導が対面であり、不明点を質問したり、情報を得る等、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の安全を第一に考え玄関を出るとすぐに道路である為内ドアは施錠しているが玄関はオープンにしている。外部研修に参加、報告書提出身体拘束委員会にて事例をもとに勉強会実施している	身体拘束廃止委員会を3ヶ月毎に開き、玄関の施錠の他、支援の際の職員の言動が、不適切ケアに繋がらないかを検討している。年2回の勉強会では外部研修を受講の後の報告や事例検討を行い、職員に周知している。支援に迷う時は、抱え込まず、管理者や他の職員に相談する等、拘束のない支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内勉強会・虐待防止委員会にてテーマあげ話し合っている。外部研修に参加し自己啓発に努めている。職員間で注意しあえる環境づくりも努力している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内勉強会にて入居者個々の権利が何であるの考え意見を出し合い、その人なりのより良い支援を提供できるよう務めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前訪問によりご本人様やご家族と対話し状況などを把握し、施設の見学説明など行い納得していただいたうえで、再度、口頭、文書にて説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見ボックスを設置している。アンケートに協力いただき意見要望など伺い職員全員で反映できるよう話し合う。	現在、面会が可能であり、家族と入居者、職員とは直接話している。職員は、家族に入居者の暮らしぶりや健診の結果について、対面や電話でこまめに連絡している。また、インスタグラムを通じて、行事等の様子も逐次発信している。今年、家族会をお茶会形式で初めて実施し、交流の場を作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案が有れば職員全員に伝え相談し反映できるよう務めている。必要であれば理事長・事務長へ伝えている。	ホーム内には、職員全員参加により各種委員会を組織している。定期的にメンバーを入れ替えており、運営面に広く携わる工夫が窺える。子育て中の職員は、短時間勤務が可能であり働きやすい環境である。職員からは、日常的に意見や物品購入の要望が出ており、ホーム長から事務長、理事長へと希望を伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の体調は勿論家庭環境にも気を配り、働きやすい職場環境を整えるよう務めている。個々にお応じて月行事担当等を決め得意とする事を発揮出来、やりがいを持てるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員がスキルアップ出来るように研修の参加や資格取得を支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ過により交流機会が減少したが、勉強会はzoom活用し参加している		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴し、本人が納得に近い形で、本人に寄り添いながら対応している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や要望に出来る限り応えるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人に合わせたサービスを職員間で検討し、その方に無理のないようなサービス提供をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の家事など(洗濯物量など)をスタッフと一緒にお手伝いして頂き役割を持って過ごしていただいている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会制限が緩和され御家族と過ごす時間も増えその際本人の日ごろの状況などお伝えし、本人が自宅へ連絡したいと希望したときはいつでも電話して良いと了承を得ている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の喋り慣れた方言など理解し同じ様に合わせて会話したり、生まれた場所などの話も取り入れる	入居者毎に、「私のことを知るために」というシートに生活歴や好きな話題等を記載している。入居後知り得た情報を追記し、共有を図っている。正月は、職員手作りの神社でおみくじを引いたり、くんちの庭先回りもある。家族と携帯電話で会話する人や新聞を購読している入居者もいて、自宅にいる時のような暮らしができています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の相性や関係性に配慮しながらテーブル席を決めている。レクリエーションや月行事・月2回の音楽療法では交流の場を広げている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームで亡くなられたご家族が、懐かしんで定期的に来設されている。ご家族の近況を尋ねたり良好な関係が築けている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で直接意向を確認するよう努めている。意思疎通が困難な利用者には日々の様子や表情を汲み取りながら支援をしている	起床が遅い入居者に対応している他、菓子を食いたい等の要望にも応えている。服を選ぶことができる入居者には、職員がさりげなくサポートを行っている。毎日、生活の記録をメモ帳に書いている入居者や手紙を書く人もいる。冠婚葬祭には、家族の協力を得ながら出席できるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人家族に生活歴やこだわり・習慣などを直接訊ねこれまでの暮らしの把握に努めている。介護サービス利用中の様子は居室担当やケアマネから情報収集行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の様子や日々の記録・職員の気付きなどで、利用者の現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活記録や職員からの情報をもとにモニタリングを行っている。新たな課題についてはご家族や本人に聞き取りを行い現状に即した介護計画を作成している	入居時は、前施設の情報より、暫定プランを立て、1ヶ月後を目途に介護計画を作成している。モニタリングは個別記録や職員の情報を基に、2ヶ月毎に実施しており、家族の意見は電話やメールで尋ね見直しに繋げている。ただし、介護目標項目毎の達成の状況が、日々の記録からはわかりにくい。	入居者一人ひとりが、より良く暮らすため、全職員で入居者一人ひとりの目標を把握し、PDCAサイクルが機能するよう、記録方法の工夫が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録には課題に対するケアの実践や経過を記入するようにしている又個別ケアの実践について評価を行い介護計画の見直しに活かしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の身体機能に添った支援の提供が出来るように、常に職員間での情報共有に務めている。家族対応が困難な場合は施設対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のコロナ感染確認しながら制限しつつ地域の祭りに参加し交流の機会も提供している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	元々のかかりつけ医は、家族の協力もあり継続できている。その際はお手紙や電話等で情報共有している。状況に応じて他科の受診などは、施設対応するなど支援している	入居者全員が、母体法人医師の往診を毎週受けている。かかりつけ医を家族が受診支援する際は、看護職員から主治医に情報を提供している。近隣の他の診療科は職員が支援し、大きな医療機関へは状況に応じ、家族と職員が同行し、受診結果は電話で伝える等、情報を共有している。緊急時は、医師と24時間連絡体制を確立している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職の情報を元に観察状況を確認し、必要時医師に報告、服薬・採血等指示を受け異常の早期発見や、必要に応じ病院受診が出来るようになっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	敵宣医療従事者や家族への状態確認を行い定期受診が必要な方は支援対応している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	痛みや苦痛を可能な限り緩和できるように支援やケアを行い家族の不安を傾聴し受容出来るよう医師との橋渡しをしている	契約時に、看取りケアの指針を基に本人・家族に説明し、同意書を得ている。家族を招いてのお茶会の際にも話題にして説明している。重度化の際は、医師を交えた話し合いを重ね、最期はこうありたいとの思いに寄り添い、この1年に複数の看取り支援を行っている。職員は、看取りケアの研修を受講し、不安軽減に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃よりスタッフ間での情報共有は出来ており連携が取れている。マニュアルを参照し連携した行動が取れている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	毎月の消防訓練は、火元・状況を想定し1階・2階のスタッフが連携し、避難誘導を行っている。年2回6月・12月は総合訓練を実施している	毎月の訓練は、昼夜間の職員数が限られる時間帯と出火場所を毎月変え、繰り返し実施しており、内1回は消防署立会いの訓練である。自然災害訓練はBCP発動時の想定で、職員をグループに分け、アンケート形式で、災害時の課題点や疑問点の抽出に努めている。ただし、水や食料の備蓄はこれからである。	災害時に必要な水や食料等備蓄品の整備が待たれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る際はノックをする。本人が居室に居ない時は部屋に入ること伝える。排泄・入浴介助時は声掛けし拒否された際は時間を置いて再度声掛け無理強いないように本人の意思を尊重している。	職員は、支援の前には入居者に声を掛けること、トイレのドアは閉めることを心掛けている。申し送り時は、入居者の名前はイニシャルで伝えている。職員は、守秘義務の誓約書を提出している。他、入居者の写真の使用に関して、家族から同意書を得ている。ただし、家族への連絡にLINEを活用する際に、職員個人の携帯を使用している。	LINEの使用については、個人情報保護の観点から、発信元の機器の検討が待たれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを傾聴し本人の安心できる声掛けを行うように心掛けている。自己決定が難しい方は簡単に答えられるように質問する		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前中は入浴以外の方はDVDの映像にて歌を聴いたりTV視聴される。本人に確認し手作業(新聞折)のお手伝いをして頂く。午後は自室でお昼休憩・リビングで洗濯たたみなどして頂き、おやつ後にDVDにて体操をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた服装や気温にあった衣類調整をしている。髭剃りやブラッシングなど自分で出来る方は、声掛けし自分でして頂き、手足の爪は伸びていないか、汚れていないか入浴の際など定期的に確認しケアしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養のバランスを考え外部業者による食事提供している。季節ごとの行事には入居者の方と一緒に作るおやつメニューを考えています	食事は、朝食のみホームで作り、外部業者に委託している。ソフト食、ミキサー食にも対応可能である。おせち、ちらし寿司、ソーメン流しと季節感を大切にしていることが窺える。近隣のレストランへ出掛けることもある。手作りのおやつ作りや着物を着てお茶会開催、干し柿作り等食事が楽しいものとなるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じた食事形態での提供、糖尿病やアレルギーなどある方は、看護師の指導を受け提供している。食事、水分摂取量を記録し不足分は本人が好むもので補って頂き対応している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けを行い自立にて出来る方にもスタッフが仕上げのお手伝いを行い介助が必要な方には口腔内の清潔保持に努めています		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立での排泄が困難な方には、排泄パターンや日々の体調変化を見ながらトイレ誘導し必要に応じて2人介助も行います	介護度の高い入居者であっても、昼間はトイレでの排泄を基本として支援している。本人のトイレに行きたいという感覚を重要と捉え、職員は敢えて先回せず寄り添っている。布の下着への移行の可能性について職員間で協議し、実現したケースもある。夜間使用するポータブルトイレは、その都度洗浄し、清潔保持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を見ながら、排便の回数や水分摂取量・食事量の確認を行います。きずきが有れば看護師と連携して飲食物の工夫やマッサージなどの対応もしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者全員が週に2回以上入浴出来る様に対応している。希望に添えるように順番を変え時間をずらしたり拒否が有れば好きな歌を一緒に歌いながら介助したりしている	入浴は週2回以上の頻度で実施し、清潔保持を心掛けている。浴室入り口には、暖簾をかけ雰囲気を出すとともに、浴室内はヒートショック予防のため暖房を設置している。介護度の高い入居者には、男性職員2名で浴槽に浸かる支援ができている。足湯や冬至のゆず湯等、入居者がリラックスできるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後など声掛けし、午睡希望の方は居室で休んで頂いたり夜間は、本人の希望に応じて居室誘導し臥床介助している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の袋に薬名・数量を記入し誤薬を防ぐため準備から服薬介助まで3人の目で確認している。看護師と連携し体調の変化などあればすぐに対応出来る様にしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を干したり、畳んだり、新聞折りなどの手伝いをお願いしている。パズルや歌を聴いたりお好きなことで過ごしていただいている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食などは、全員で行けるように車いす対応できるところを探し出かけている。ご家族には、病院受診などで協力していただいている	ホームの行事として車椅子の入居者も一緒に、春には桜やつつじ見物、秋には弁当持参でコスモスを見に高原ヘドライブへ出かけている。ランタンフェスティバルの見物や近隣に外食に出掛けることもある。中庭では野菜を作り、入居者が収穫を手伝っており、戸外の空気に触れる機会を多く作っていることが確認できる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は基本的にご家族確認の元、預かり金として、管理している。使用するときは、預り金から購入出来るようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人希望があるときは時間を考え利用していただく。手紙はご家族から届くお便りなどをご自分で読まれり職員が代読したりして喜んでいただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事故のつながるものが無いように心掛ける。又タンスの上にはご家族の写真を置いたり、四季折々のものを分かりやすい様に配慮する	リビングの小上がりの間を、敬老会に職員が詩吟や踊りを披露したり、月2回の音楽療法に活用する等、入居者と職員が共に楽しむ共用の場となっている。歩行訓練やテレビや雑誌を見る等、個別の楽しみ方もある。季節毎の飾りの中で過ごす入居者の笑顔が窺える。ワックスや毎朝の清掃と換気で、清潔保持に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	決まった席があり、DVDを観たりスタッフと会話をし楽しく過ごしていただく。リビングや自室など本人の居心地が良い場所でゆっくり過ごしていただくなど個々の意思を尊重している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みのある家具など持参していただき、混乱が減らせるようにしている。本人が使いやすい様に模様替えなど行うなど工夫している	居室入口や部屋の模様替え等、担当職員が担っている。馴染みの家具等を持ち込み、家族と相談し安全に配置している。100歳を祝う写真や家族写真、花好きな入居者の為に、季節毎に花の絵を飾る等、温かみを感じる居室である。職員は、掃除機やモップによる毎朝の清掃や換気で清潔に保ち、快適に過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分の席や居室、トイレの場所が分かりやすい様に、貼り紙等で案内している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270105077		
法人名	医療法人秀和会釣船医院		
事業所名	グループホーム『おお空』2F満天		
所在地	長崎県長崎市かき道1丁目29番8号		
自己評価作成日	令和 6 年 10月 20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

矢上団地の入り口に開業し来年で20年、地域の関係者・自治会・支援協力を積み重ね行事・ボランティア・防災教育等に参加したりお招きに応じて頂き馴染みの関係になり、認知症高齢者施設としての役割をさせて頂いています。 職員も近くの馴染み 顔見知りの方も多く働きやすく経験豊富な職員も多く安心して入居者も暮らしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に入っすぐとリビングに張り出し常に忘れないよう心掛け実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加しており、参加できる行事には入居者様と職員で参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣に住んでいる職員も多く、地域の身近な情報など地域連携もあり顔見知りの施設見学も多くなっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	同業者が運営推進会議の機会も意見交換も盛んで入居者のサービス提供に助言を頂き、職員交流も話し合う機会が多くなっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所のコロナ開催有無の考えを尋ね参考にしたり、今年は久しぶり運営指導があり多くの質問を尋ねました。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設置しており、3ヶ月に一回話し合い、内容を周知している。 外部研修に参加したさいは、ホーム内勉強会にて発表している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3ヶ月に1回委員会を開き虐待・拘束に繋がる原因や声掛け等、スタッフで話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の担当者を決めており年二回ホーム内勉強会で実践的事例報告等、勉強する機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望の施設見学等で契約指定日が決まると入居書類のコピーを手渡し契約当日、時間に余裕をもってご家族の納得できるように説明し締結しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関する大切な情報は運営議事録資料配布し、お便り新聞にて報告している。」催し物参加の有無は期間を設け電話にて意思を訊ねたりしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回全体会議をしており、その時に意見や要望などを聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	体調不良や家庭の用事等の際、有給休暇や勤務変更をしやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内勉強会や外部研修への参加を呼びかけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業者どうしで、各施設の運営推進会議に参加したり、GH協議会に参加しており、意見交換している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、面談を行い、今困っていること、不安に思っていることをお訊ねしている。ご本人の言葉に耳を傾け理解し、知る努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、生活状況をお訊ねしご家族の求めていること要望を理解し、ホームでできることをご家族と一緒に協働しご本人を支えて行くことを伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談があった時に、今 必要な支援は何かを考え、当ホーム以外の事業所の利用もお勧めしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活において気持ちよく暮らせる環境とは職員が優しくならないと入居者様には伝わりません「、いつも、いっしょうに、いつまでも」の精神で取り組んでいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と、ご家族の関係は日頃より包み隠さず何でも言える支えあう対等の関係を目指しています。遠慮して言えない関係はご家族・利用者・職員が我慢している関係です。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設に棲家に移す前に住んでいたご近所の方や、知人との関係が途切れないよう、お手紙交換の支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様に集まってもらいゲームや頭の体操・レクリエーションをしている。体操行う際は入居者様それぞれ声掛けを行い、皆様に楽しく活動している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様が退去された後でも、ご家族様と連絡を取り合い近状報告や介護についての相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の日々の様子や発する言葉、表情から思いを汲み取る努力をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の意向に合わせて生活環境を整えています、身体の衰えで体力が落ちて気持ちに寄り添い共同作業を心掛け気力が落ちない取り組んでいます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活が単調にならないようにフロアで過ごせるように一人ひとりに役割をお願いして時間を有効に過ごして頂いています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは2ヶ月に一度行っている。ご家族に、以前の生活様式等お訊ねする中で、ケアのヒントとなることも少なくない。又、職員の気づきやケアのアイデア等を話し合い、ケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中で気づきやご本人の発する言葉を大切に、申し送り帳・生活記録・グループライン等で情報共有し、ケアプランの見直しに活かしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出支援が近年のコロナ対応で少なくなりボランティア活動が依然と比べ開催自粛となるなか夜桜見物にお連れしたりドライブを兼ねての外食も決行し楽しい時間だった。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の関係者との関わりは近隣で行われる恒例の神社鳥居の清掃作業に参加したり消防団主催の防災訓練に参加にするなど関係者との連携体制に取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム入居後も、それ以前の馴染みのかかりつけ医への受診を必要な時に行っている。 日頃の様子やバイタル測定を電話やお手紙で伝え支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内には常勤の看護師が在籍している。 入居者様の体調の変化や気になる事は常に看護師に相談し、Drの指示のもと必要な看護や受診も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する事で身体や精神に様々な影響を及ぼす可能性がある。そのため早期の退院に向けて、ご家族様の意向を確認しつつ病院関係者とも協働している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	昨年、元気なうちかた手帳の冊子を用いて、ご家族と重度化した場合・看取りについて、お茶形式で話し合う取り組みをしました。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や怪我をした時のマニュアルをリビングに置いている。又、Dr・医療職との連携も24時間可能となっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	入居者様を安全に避難誘導出来るよう昼夜を想定した訓練を月に一回している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の居室は施錠できるようになっており、訪室する際にはノック・声掛けをし開けるようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通がとれる入居者様には着る服等を選んでいただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お手伝いをして頂ける入居者様にはその都度意思を確認してお願いしたり、別の事をして頂いたり個人のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なるべく入居者様に衣類を選んでもらうようにして頂いてるが選ぶ事ができない入居者様には職員がお手伝いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お手伝いして頂ける人には食事の準備や食器洗い等をお願いして頂いてる。一人ひとりの入居者様の食事形態が違うので、それぞれの食事形態に合わせて提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生野菜やバナナを提供している、入浴した入居者様には水分補給、ポカリスエットを提供している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後又、おやつ後に各自口腔ケアをされている。すぐにされないかたには声掛けし、自分でできない入居者様には介助を行っている。 口腔内が清潔に保たれるよう丁寧なケアを心掛けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけ、個人の様子を把握し、声掛けや介助を行っている。少しでも自分で排泄ができるように気配りしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活の中で体操や歩行を推奨し、胃腸が動いて自然に排便できるよう心掛けている。 便秘解消のためヨーグルトや牛乳・バナナ等、提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の際には必ず声掛けを行い、拒否があった場合は無理強いせずに様子を見て再度の声掛けをして、喜んで入ってもらえる様心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前中休まれる方、午後から休まれる方、一人ひとりの生活リズムを大事にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が入居者様一人ひとりの薬が把握できるように個々の薬袋にお薬名が記載されている。 お薬の変更があれば必ず申し送りをして記録に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が得意な入居者様には昼食用のサラダの野菜を切っていただいたり、洗濯物を畳のが得意な入居者様には畳んでいただいている。 折り紙や塗り絵・読書等、趣味に応じた活動を支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外出する事は難しいが、帰宅欲求のある入居者様には屋上にお連れして、外気浴で気分転換を図っている。 地域の行事や花見ドライブ・外食等の計画を立て、実践している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内でのお金の所持はトラブルになりやすいので、預り金として職員が管理しているが、趣向品や必要なもの等自由に使えることをお伝えして、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	不穏になられ家族へ電話したいと希望があった際、電話をお貸しし精神安定へ努めている。 手紙のやり取りをされている入居者がおられポスト投函などスタッフで実施している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除・整理整頓の実施。 転倒リスクを招くことがないよう環境を整えています。季節に合わせて壁画の作成を入居者で行ったり、飾ったり居心地よく過ごせるように心掛け実践している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホームは全て個室で好きな時に各居室の行き来が可能。 それぞれの性格など考慮してテーブル席の配置したり、自由に使用できるソファや小上がりの畳等の環境があります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前に使用されていた家具・TV・仏壇等、持ち込んでいただいたり、本人様らしさがある居室作りを心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや廊下等、歩行が安全にでき、ご自身で歩けるように手摺を設置している。 居室が分からなくなったりした際、場所の確認ができるように表札・トイレ・浴室等、目に付くようにしている。		